

共産党・志位委員長ズバリ

政権交代

一気にやらずに

日本共産党の志位和夫委員長が大きく表紙を飾る『週刊金曜日』最新号(19日発売)は、志位氏の単独インタビューを6ページにわたり掲載しています。政権交代について「次の選挙で、一気にいくのか」と問われ、「一気にいく。一気にやらずに。今度の選挙で『政権交代を実現する』と言い切らないと野党の責任は果たせない」と語りました。

志位氏は、安倍晋三、菅義偉両政権のコロナ失政の「背景には何かある」と問われ、政府がPCR検査を増やすことを怠ってきたことと国民に自粛を求めながら十分な補償をしてこなかったことをあげ、「科学を無視する姿勢。それと国民に自己責任を押し付ける。この致命的な二つの弱点が一貫している」と強調。「その根底に何かある」と問われ、「自己責任」の押し付けは「新自由主義」の特徴だと指摘。医療費削減、保健所減らし、雇用の質の劣化などの政策を続けてきた矛盾がコロナ禍のもとで噴出していると述べ「その延長上でのコロナ対応になっている」と批判しました。



志位和夫委員長のインタビューを掲載した『週刊金曜日』2月19日号

ほぼ一致していますから、政権交代が(参加への)一番の近道だ」と主張しました。

8カ月以内に行われる総選挙について、野党共闘で政権交代を実現し新しい政権をつくるために「最大限の力を注ぎます」と決意を述べました。

◆「政権協力」で状況は変わる

世論調査で野党の支持率が上がっていないことについて、「『自己責任の押し付けではなく福祉と暮らしを良くする政治の責任を果たす』という方向での共通政策を確認し、新しい政権で協力する。これが出れば状況は変わる」と主張しました。

志位氏は政権合意をつくるため、1年半にわたりいろいろな話し合いをやってきたと説明。政権交代での連携の合意はできているが、「『新しい政権で共産党と協力する』という『政権協力』については合意に至っていない。その合意ができるかどうか、とっても大切です」と述べました。

政権協議が「今後、どのあたりが山場になるのか」と問われた志位氏は「もうそろそろ山場です」と指摘。「(『政権協力』の)合意に至った場合は選挙協力の度合いも違って来でしょう」と述べ、「『政権協力』ということは、簡単に言えば『枝野代表を総理大臣にする』という話です。それに協力していこうということなのです」と語りました。

◆核禁条約参加「一番の近道」

志位氏は、1月22日に発効した核兵器禁止条約に「核抑止力の正当性を損なう」として加盟に背を向ける政府の姿勢について、核抑止は「いざという時には核兵器を使い、広島、長崎のような非人道的惨禍を繰り返すことをためらわない」という立場だと指摘。「被爆国の政府がそういう立場を取るというのは、根本的政治的墮落です」と批判しました。志位氏は「野党間では核兵器禁止条約への立場が

オール野党で政権交代 困った人にやさしい政治。



党都副委員長・医師 谷川智行 衆議院議員 笠井 亮 前衆議院議員 池内さおり 衆議院議員 宮本 徹 山形市立小児科事務局長 坂井和歌子



ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2021年2月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

#比例は

日本共産党

政権交代

一気にやらずに

日本共産党の志位和夫委員長が大きく表紙を飾る『週刊金曜日』最新号(19日発売)は、志位氏の単独インタビューを6ページにわたり掲載しています。政権交代について「次の選挙で、一気にいくのか」と問われ、「一気にいく。一気にやらずに。今度の選挙で『政権交代を実現する』と言い切らないと野党の責任は果たせない」と語りました。

志位氏は、安倍晋三、菅義偉両政権のコロナ失政の「背景には何かある」と問われ、政府がPCR検査を増やすことを怠ってきたことと国民に自粛を求めながら十分な補償をしてこなかったことをあげ、「科学を無視する姿勢。それと国民に自己責任を押し付ける。この致命的な二つの弱点が一貫している」と強調。「その根底に何かある」と問われ、「自己責任」の押し付けは「新自由主義」の特徴だと指摘。医療費削減、保健所減らし、雇用の質の劣化などの政策を続けてきた矛盾がコロナ禍のもとで噴出していると述べ「その延長上でのコロナ対応になっている」と批判しました。



志位和夫委員長のインタビューを掲載した『週刊金曜日』2月19日号

ほぼ一致していますから、政権交代が(参加への)一番の近道だ」と主張しました。

8カ月以内に行われる総選挙について、野党共闘で政権交代を実現し新しい政権をつくるために「最大限の力を注ぎます」と決意を述べました。

◆「政権協力」で状況は変わる

世論調査で野党の支持率が上がっていないことについて、「『自己責任の押し付けではなく福祉と暮らしを良くする政治の責任を果たす』という方向での共通政策を確認し、新しい政権で協力する。これが出れば状況は変わる」と主張しました。

志位氏は政権合意をつくるため、1年半にわたりいろいろな話し合いをやってきたと説明。政権交代での連携の合意はできているが、「『新しい政権で共産党と協力する』という『政権協力』については合意に至っていない。その合意ができるかどうか、とっても大切です」と述べました。

政権協議が「今後、どのあたりが山場になるのか」と問われた志位氏は「もうそろそろ山場です」と指摘。「(『政権協力』の)合意に至った場合は選挙協力の度合いも違って来でしょう」と述べ、「『政権協力』ということは、簡単に言えば『枝野代表を総理大臣にする』という話です。それに協力していこうということなのです」と語りました。

◆核禁条約参加「一番の近道」

志位氏は、1月22日に発効した核兵器禁止条約に「核抑止力の正当性を損なう」として加盟に背を向ける政府の姿勢について、核抑止は「いざという時には核兵器を使い、広島、長崎のような非人道的惨禍を繰り返すことをためらわない」という立場だと指摘。「被爆国の政府がそういう立場を取るというのは、根本的政治的墮落です」と批判しました。志位氏は「野党間では核兵器禁止条約への立場が

オール野党で政権交代 困った人にやさしい政治。